

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2010年7月1日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町 366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 「自立訓練（生活訓練）事業所レイクビューの

## 3年間の軌跡及び今後の展開について」

自立訓練(生活訓練)事業所レイクビュー 管理者 大石 由実

自立訓練(生活訓練)事業所 レイクビューは、全国で2番目の精神障害者退院支援施設として平成19年6月11日に定数30名でスタートし、精神科医療機関の長期入院の方を積極的に受け入れ、退院促進の一助となってきました。

レイクビューではこの3年間で44名の利用者を受け入れました。利用者の内訳は、男性34名、女性10名、平均年齢男性58歳、女性51歳、最高年齢(終了時)74歳、最少年齢(開始時)35歳となっています。

生活訓練としては、服薬・金銭管理指導、清潔保持・整容指導、健康管理指導、体力づくり、スポーツ活動、調理実習、カルチャークラブ活動、レクリエーションなどを行いました。また健康管理支援グループ、入浴支援グループ、社会体験グループ、就労準備グループ、退所準備グループ、新聞編集委員など課題別の小グループ活動も行い、日常生活能力の向上を目指してきました。また、積極的に地域の社会資源を活用し、地域の主催する講演会やイベントへの出席(保健所主催当事者セミナー、公民館主催地域セミナー、祭り、市主催の講演会、ボランティアフェスティバルなど)、対象者ごとの個別ケア会議の実施(対象者の地元役所にて開催)、対象者の地元地域の健康相談への参加、地域清掃活動を通じての社会貢献、ボランティアの導入(手話講座の開催、精神保健福祉ボランティアとの協同企画、交流)、地域交流会の開催などを実施し、地域移行に対する意識も高めてきました。

その結果、20名の利用終了者のうち13名が地域移行しました。その13名の現在の内訳は自宅復帰2名、単身生活3名、高齢者施設入所4名、他法人のグループホーム入居2名、地域移行後精神状態が悪化し精神科病院へ再入院が2名となっています。残りの7名は精神科病院再入院4名、逝去3名です。

一方で、現在利用中の24名(男性17名、女性7名)も、現段階では自宅復帰や単身生活などへの移行は難しいですが、本人、家族、市町担当者や保健師、主治医、精神保健福祉士、相談支援専門員などを交えた対象者ごとの個別ケア会議の中で、今後もレイクビュー(グループホーム)において共同生活を行い、専門スタ

ッフによる継続的な地域生活支援を実施することが、本人の地域生活への本格移行、地域生活継続には有効であると評価されています。

今回、共同生活援助事業への変更を決めたのは以下の3点を協議した結果です。

①長期入院患者様にとって3年の月日はあまりにも短く、現段階で無理な地域移行を進めると、利用者の多くが移行先で精神状態が悪化し再入院になる可能性が高いため、現在の利用者が継続して利用できる道を模索したこと。

②精神障害者退院支援施設の機能はそもそも精神科医療機関の病床削減にあり、当時レイクビューが開所したことにより平成19年6月に51床休止、平成20年5月に53床廃止を実現し、さらにレイクビュー利用者の大半が再入院することなく地域生活を継続できていること自体が、長期入院患者様の退院の実現という大きな役割を果たしたと評価できること。

③香川県精神障害者地域移行支援特別対策事業からもわかるように、長期入院患者様の退院支援は年々難しくなっており、制度上レイクビューは1年以上の長期入院患者様が利用対象となっていることに加え、自立訓練(生活訓練)事業の利用期限が最大3年と有効期限のため、今後継続した利用者確保が見込まれず、運営自体も難しくなること。

平成22年7月1日から共同生活援助事業へ事業転換することとなり、現在の利用者24名は共同生活援助の支給決定を受け、今後も継続してレイクビューを利用させていただきます。利用者の日中活動については、三船病院デイケア・デイナイトケア、西紋病院デイケア、地域活動支援センターはなぞのの利用、アルバイトなどを予定しています。

今後は地域の社会資源の1つとなり、地域からの新規利用者も受け入れ、一人でも多くの精神障害者の地域生活継続ができるよう努めていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い致します。



# 「三船病院歯科における取り組みと役割」

歯科衛生士 山本 普望

三船病院歯科は、常勤歯科医師1名、非常勤歯科医師1名(火曜日午後)、歯科衛生士2名で日々の診察を行っています。当歯科の患者様は、全体の8割が入院患者様、2割が外来患者様・職員などです。

歯科では、できるだけ患者様の待ち時間が長くならないよう気をつけています。特に外来患者様においては、事前に予約をしていただき、精神科外来受診の待ち時間を利用して歯科受診できるよう、事務所・外来看護師と連携しながら、待ち時間の短縮を心がけています。そして、治療中は常に患者様の顔色や表情の変化、身体の動きに気を配りながらアシスタントワークを行うことが大切であり、笑顔と思いやりを忘れずに患者様へ優しく声をかけるなど、少しでも緊張や不安、恐怖といった精神的ストレスを和らげて安心して治療を受けてもらえるよう努めています。

さて、そんな歯科治療の対象となる二大疾患といえば虫歯と歯周病です。いずれも歯の表面に付着した歯垢中の細菌による感染症です。歯周病は成人の80%が罹患しているといわれ、歯周病菌が歯と歯茎の隙間に深く入り込み、毒素を出しながら歯肉に炎症を起こし、歯を支えている歯槽骨を溶かしていきます。自覚症状が乏しいため、気がついた時にはかなり進行していることが多く、放置しておくとう歯が抜け落ちてしまう怖い病気です。また最近では、歯周病と糖尿病、心臓血管疾患等

全身疾患との関連性が示唆されており、歯周病が全身に悪影響を及ぼすことも分かっています。この虫歯、歯周病を予防するためには、毎日のブラッシングで歯垢を取り除くことが最も重要となります。そこで歯科では、病棟での検診やブラッシング指導の他、口腔内の清掃が充分行き届かない患者様には、予防のため歯垢や歯石の除去など定期的に口腔内のメンテナンスを行っています。虫歯、歯周病の早期発見、早期治療にも繋がるので、少しでも多くの患者様に関心を持っていただけるよう働きかけていくことが今後の課題です。

また1病棟、南病棟、福寿荘(各フロア)へは、2週間に1度のペースで出向き、口腔内や義歯の清掃を行う器質的口腔ケアを中心とした口腔ケアを行っています。高齢者や寝たきりの方は、自分でブラッシングを行うことが困難になります。口腔内の汚れから誤嚥性肺炎も起こりやすくなるので、高齢者の口の中から全身の健康を守るため、口腔衛生状態の改善、口腔機能の維持・向上を目的に取り組んでいます。

お口の中の爽快感と、噛むことを通して食事の楽しさを感じてもらえるよう、今後も口腔ケアを充実させていくとともに、患者様の口腔内の健康を保ち、生活の質の向上に少しでも貢献できるよう努めていきたいと思っております。

## 三船病院医師からのメッセージ...

「認知症あれこれ」

三船病院医師 安田 華枝

### 1、「認知症」は一つの病気ではありません

認知症とは、「脳の病変によって、記憶を含む複数の認知機能が低下し、社会生活に支障をきたした状態」と定義され、様々な病気を含む状態を表す言葉です。つまりアルツハイマー病や脳血管性認知症など、原因が違っていても全て認知症と呼ばれますから病名ごとに治療法、経過、治癒見込みも異なります。また認知症と間違われやすい病気に、うつ病、薬やお酒の影響、意識障害などがあり、これらは早期に適切な治療をすれば治ることも多いです。

### 2、「認知症」は治らないの??

代表的な認知症であるアルツハイマー病を例にとると、今のところ、完全に進行を止める治療法は研究中です。しかし、早期には進行を遅らせる薬があるので、早期診断されることが有用です。また記憶力が悪くなり、社会生活に支障が出る時期は、ご本人がとて不安で感情が不安定になることもあります。認知症の中核症状である記憶力や認知機能の低下は進みますが、周辺症状である感情や行動の障害は薬やケアで安定させることができます。

### 3、予防法はあるの??

生活習慣病である高血圧や糖尿病予防と似ており、栄養を過剰摂取しないこと、軽い運動習慣(約十五分の散歩程度)、適度な睡眠時間、三十分以内の昼寝なども良いと言われています。そして何よりも、怒りやストレスを溜め込まない生活が良いそうです。

認知症は年相応で仕方ないと決めてしまわず、治療可能な病気かどうか、正しく診断されることが大切ではないでしょうか。

# 三愛会 トピックス

## ★三船病院家族会

5月18日(日)三船病院家族会を開催しました。大勢のご家族にご参加いただき、ご本人と面会したり、一緒に食事を楽しんだり、ゆったりと過ごされました。また演芸会では、イスパニアフラメンコ舞踏教室の皆さまをお招きし、華やかなフラメンコショーが行われ、参加された皆さまは楽しまれていました。



## ★第16回家族教室

5月18日(日)三船病院家族会に併せて、第16回家族教室を開催しました。三船病院医局長・山城医師から「病気とお薬について」と題して、精神科の病気とお薬について話をしました。16家族18名が参加され、「薬の効果が理解できた」「疾患の種類が分かってよかった」など多くのご意見・ご感想をいただきました。



## 三船病院 委員会活動紹介

### 「 看護部図書委員会 」

委員長 看護師長 新開 員代

看護部図書委員会は看護部教育委員会の下部組織として平成19年9月1日に発足し、2ヶ月に1回の頻度で委員会を開催しています。

この委員会の活動は、三船病院図書室の看護部門の図書について、どのような図書を購入するのか審議し、看護関連情報の収集及び提供を図り、看護職員の日常業務を向上させることを目的としています。具体的な活動内容としては、看護部門の希望図書の購入についての審議、新刊図書の看護部門(病棟)への紹介、看護部門へ寄贈された図書の登録と管理、その他にも看護部図書の管理運営を行っています。

現在の課題は、まだまだ看護部図書の利用数が少ないことです。そのため、各病棟の図書委員は、各病棟に毎月何冊か本を紹介し、ロケマネ君の利用方法について説明を行っています。また、購入してほしい本があれば早急に審議し、申し込み・購入を行います。最近、忙しい業務の間に少しの時間で楽しく読むことのできる新刊図書を何冊か購入しました。これからも気軽に利用できる図書室を目指して活動をしていきたいと思っています。看護部門での希望図書があれば、どんどんお伺いしていきますので、よろしくお願いします。

#### 《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第1水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



## 【介護老人保健施設 福寿荘】

「第二の家」デイケアを目指して

介護福祉士 萩原 亜紀

日本の平均寿命が延び、高齢者の人数が増え続けている現在、高齢者の福祉サービスの充実が注目されています。

私は現在、福寿荘のデイケアで勤務しています。デイケア利用者は、さまざまな疾病を抱えながら通われていますが、皆さまそれぞれに目的を持っています。デイケアは、リハビリ中心ですが、リハビリ以外に外出の場の一つとして楽しみに通われている方がほとんどです。

そんな中、私たち職員が一番に考えていることは、「今日来て良かった。また行きたい」と思っただけのことです。そのために私たちが一番重要視している時間は、来所してからのほんの1時間です。来所時の顔色や、身体状態の変化、声かけをした後の反応を観察し、バイタルチェックを行います。また、送迎の時にはご家族から自宅での様子を伺い、それらを総合的に捉えたうえで、一日の日課の継続や変更を決めます。私たちは、リハビリ・入浴・食事等の日常生活の一部をサポートするだけですが、その中で個々に合ったサービスを提供し、少しでも多く会話をしてコミュニケーションをとり、楽しく笑っていただけるよう心がけています。

家庭が一番落ち着く場であると思いますが、その次に気楽で落ち着ける場所「第二の家」がデイケアになることを目指して、今後も努力していきたいと思っています。

## 【三愛会コミュニティケアセンター】

地域活動支援センターはなぞの 施設長 山田 智子

地域活動支援センターはなぞのの近況についてお知らせします。はなぞのは、地域で暮らしている精神障害のある方に対して、居場所や活動の場、交流の場、社会参加の機会などを提供し、生活支援や相談活動を行う支援センターです。利用登録者は“メンバー”と呼ばれ、はなぞのには現在142名のメンバーがいます。お一人おひとりが自分らしい生活を送れるように支援するとともに、地域の方々や関係機関の方々と交流、協力しながら地域福祉を推進していくことが目的です。

活動内容の実際は、①365日センターを開所して憩いの場や交流の場を提供しています。登録メンバーは、自分の生活スタイルに合わせて自由な時間帯に来所しています。②各種活動を実施しています。例えばカルチャークラブやクラブハウス(皆でイブニングに集まり料理、会食、交流をする)、公民館で市民も一緒に行うパソコンクラブの他、内職活動や就労に関心がある方へ就労支援事業などの活動をしています。中でもメンバーとスタッフで編集して毎月発行する機関誌「はなぞの通信」は人気です。はなぞのの活動はメンバーやスタッフの得意分野や関心事によって柔軟に企画、運営され参加も自由なため小さな活動がたくさんあることが特徴です。③地域交流活動も頑張りたいと思います。いろいろな機会をもって地域社会と繋がりを持つことが、私たちの視野や生活圏を広げ、相互理解の輪を広げることになると思うからです。

昨年度のはなぞの利用者数は延9292人、1日の平均来所者は25.5人でした。メンバーの皆さんがはなぞのに期待していること、それはやはり人と人とのコミュニケーションのようです。そこで今年度のはなぞのテーマは「交流のち晴れ」となりました。地域で孤立せず、人や社会とコミュニケーションを持つことで気持ちや生活も晴れやかになろう!との想いが込められています。

### 《三船病院からののお知らせ》

【行事予定】

○三船病院夏祭り

日時:8月7日(土)

場所:三船病院運動場

内容:盆踊り、カラオケ、花火など



### 《編集後記》

夏空の青さがまぶしい今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

医療法人社団三愛会では、今年7月1日大きな動きがありました。生活訓練(自立訓練)事業所レイクビューがグループホームへ移行し、三船病院ではデイナイトケアを開始しました。デイナイトケアの詳細につきましては、次号の三愛viewで紹介させていただきます。  
(三船病院相談室 PSW)